

## 注および文献の表記法

### \* 基本的な表記の形式

[著 書] 著者名、(論文名)、(編著者名)、書名、出版社名、出版年、引用頁。

[雑誌論文] 著者名、論文名、雑誌名、巻、号、発行年、引用頁。

[その他] 上記に準じる。

\* 英文の書名・論文名(投稿論文の英文名を含む)の表記については、単語の先頭はすべて大文字(ただし、タイトル中の冠詞と前置詞と等位接続詞を除く。be動詞の先頭は大文字)とする。またサブタイトルの前に:(コロン)を置く。

### \* 「注」のみの場合の表記の例

〈注〉

- (1) 安藤広繁「医療倫理学の基礎づけをめぐって」、『医療倫理』22巻5号、2004年、146-153頁。
- (2) 宮澤研二『医学と哲学』、倫理書房、2008年。
- (3) 川端泰成「ケアの概念の医学倫理的検討」、安部弘法・山口仁美編『医学倫理学』山田書院、2003年、12-32頁。
- (4) L. Wittgenstahl, *Philosophical Ethics*, Oxbridge University Press, 1965, pp. 32-38.
- (5) B. Willis, "Person and Health Care," *Journal of Modern Ethics* 52, 1975, pp. 42-59.
- (6) M. Collins, "Sources of Medical Ethics," in: G. Dennett, *Philosophy of Medicine*, Chicago Press, 1996, pp. 89-112.
- (7) A. デカント「医学と倫理学のあいだ」(村上夏樹訳)、『医療倫理学雑誌』2巻、2003年、82-97頁。
- (8) W. サンガー『生命と死』(山田一郎訳)、峠書房、2001年、34-36頁。
- (9) T. Childress, *Medical Ethics*, Camford University Press, 1999, p. 28. (T. チルドレス『医療倫理』大江健次郎訳、大海出版、2005年、34頁)。

# 本文の注番号は下記のように記載する。

(例) …「イギリスの犯罪多発地域が監視カメラの濃密な網の目で覆われている」<sup>(1)</sup>との指摘があるが、さらにこれとエジプトの産児制限政策との関連を指摘する論も見られるようになってきた<sup>(2)</sup>。…

### \* 「注」と「文献リスト」を併用する場合の表記の例

〈注〉

- (1) この問題については、安藤 [2004:136-138]、デカント[2003:83]参照。
- (2) cf. Willis[1975:43]; Collins[1996:93-96].

〈文献〉

Collins, M. 1996: "Sources of Medical Ethics," in: G. Dennett, *Philosophy of Medicine*, Chicago Press, pp. 42-59.

Willis, B. 1975: "Person and Health Care," *Journal of Modern Ethics* 52, pp. 32-38.

Wittgenstahl, L. 1965: *Philosophical Ethics*, Oxbridge University Press.

Childress, T. 1999: *Medical Ethics*, Camford University Press. (チルドレス、T. 2005: 『医療倫理』大江健次郎訳、大海出版)。

安藤広繁 2004: 「医療倫理学の基礎づけをめぐって」、『医療倫理』22巻5号、146-153頁。

川端泰成 2003: 「ケアの概念の医学倫理的検討」、安部弘法・山口仁美編『医学倫理学』、山田書院、12-32頁。

サンガー、W. 2001: 『生命と死』(山田一郎訳)、峠書房。

デカント、A. 2003: 「医学と倫理学のあいだ」(村上夏樹訳)、『医療倫理学雑誌』2巻、82-97頁。

宮澤研二 2008 :『医学と哲学』、倫理書房。

# 文献からの引用箇所のみ場合は、本文中に記載してもよい。

(例) …イギリスの犯罪多発地域が監視カメラの濃密な網の目で覆われていることが最近知られるようになってきた (Collins [1996:93-96]) が、さらにこれとエジプトの産児制限政策との関連を指摘する論 (デカント[2003:83]) もある。…